

1 学校教育目標
「あこがれ」をもち、心豊かに学び合い高め合う児童の育成 － やさしく かしこく たくましく －

2 学校経営ビジョン	
めざす児童像	「キラッと輝く瞳で取り組み、きばって伸びる子どもに！」 ・豊かな人間性 協力して生活を明るくする子 (やさしく) ・確かな学力 学び合い、表現を工夫する子 (かしこく) ・健康や体力 ねばり強く最後までやり通す子 (たくましく)
めざす教師像	「子どもを愛し、子どもとともに動き、自らも成長し続ける、信頼される教師に！」 ・子どもの心を見つめ、理解に努める教師 ・授業力を高め合い、常に研鑽する教師 ・厳しさと優しさを持ち、教育愛に燃え行動する教師
めざす学校像	・創造的で活気に満ちた学校 ・明るく清潔で落ち着いた学校 ・地域に開かれ信頼で結ばれた学校

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1)さまざまな交流の場で表現することを通して、豊かな人間性を育む。 (2)学習習慣・基礎基本の学力の習得活用の力の育成を図り、伝え合い学びあう場面を設定した授業実践による「確かな学力」の形成 (3)地域に学び、地域に守られ、地域に発信する地域連携の推進を行う。 (4)幼保小中連携を推進し、出番・役割を与え、表現する場を持たせ自信を持たせる。 (5)地域の期待に応える職員の資質向上を図る	○職員研修の充実を図る。 ・教師の授業力を高め、児童の学力向上(数値目標達成)につなげる。 ・「同僚に学ぶ」研修会の活性化で、個々の実践に結びついた研修をすすめる職員の職能向上を図る。 ○児童の主体的な活動、出番作り、表現する場の設定を工夫する。 ○保護者(P T A)との連携による学習・生活習慣定着は、学力向上の鍵である。今年度も継続して効果的な方策を探っていく。

5 総括表

(1)様々な交流の場で表現することを通して、「あこがれ」の心を育て、豊かな人間性を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	人権尊重の教育、道徳の時間の充実	○「学校が楽しい」と答える児童90%以上 ○道徳の授業公開を計画的に行ない、保護者とともに「命」について考える機会を作る。(年1回以上)	・毎月1日の「いじめを考える日」を計画的に実施する。 ・フリー参観デーやP T A授業参観等で年に1回生命尊重を主題とした道徳の授業を公開する。事前に周知しておく。 ・月ごと、学期ごとに生活アンケートを実施し、児童の実態を把握し、適時に対応する。

(2)学習習慣・基礎基本の学力の習得活用の力の育成を図り、伝え合い学びあう場面を設定した授業実践による「確かな学力」をつける。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	問題データベースの活用 児童の実態に合った授業実践 言語力の向上	○単元毎の評価テスト全員80点以上 ○学力検査等で全国(県・市)平均以上。 ○ノート指導の充実を図る。 ○図書館利用をすすめる。	・T T・少人数指導を算数科で実施し、個に応じた指導を充実させる。 ・問題データベースの活用したモジュール学習の充実を図る。 ・スピーチタイムを通して、伝え合う力を高める。 ・読書の拡充を図る。

特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	低学年少人数指導による基本的な生活習慣・学習習慣の育成	○「あいさつをする」「授業時間と休み時間のけじめをつける」「しっかりと聞き、言葉できちんと伝える」「宿題をきちんとする」の4点の徹底。(90%以上達成)	・日常的にあいさつの場面を意識させ、具体的に指導する。 ・全校で共通理解した学習のルールを徹底して身につけさせる。 ・話形を常掲しておき、話し方を意識させる。 ・まなざしカード等を活用し、保護者と連携して家庭学習の習慣化に取り組む。
------	-------------------	-----------------------------	--	---

(3) 地域に学び、地域に守られ、地域に発信する地域連携の推進を行う。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標及び本年度の重点目標の周知	○教職員、児童、保護者、地域に周知する。重点目標の認知度80%以上。	・職員会議、全校集会等で説明する。 ・保護者へはHP、学校便り、PTA総会、学級懇談会等で周知し、具体的取組を説明する。 ・学校便りの地域回覧や、地域の会合に参加し、説明する。
	○開かれた学校づくり	学校公開と学校情報の発信	○HPや学校だよりでの広報(月1回以上) ○参観日を活用し、保護者等との意見交換の場を持つ	・学校便りの地域回覧、HPの定期的な更新 ・積極的に保護者の意見を収集するシステム(行事・参観後のアンケート、意見箱、面談実施等)を作る。

(4) 幼保小中連携を推進し、出番・役割を与え、表現する場を持たせ自信を持たせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○幼保小中連携	雄飛学園構想による金泉校区の教育推進	○幼保小、小小、小中連携では、必ず児童に出番・役割を与え、表現する機会を設ける。	・情報交換を行う。(各団体と年間3回) ・長期休業中や参観日等、職員の参観・体験を推進する。 ・児童の交流活動を推進し、出番・役割の中に必ず表現の場を設け、自信を持たせる。

(5) 地域の期待に応える職員の資質向上を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	授業力、学級経営力の向上	○校内研修を通して授業力向上を図る。全員が授業公開を行う。 ○「同僚に学ぶ研修」「実践報告会」を計画的に実施し、相互研修を推進。全員が1回は講師になる。	・授業を公開し、指導力を向上させる。 ・異学年交流や行事実施後の評価や、職員の持ち味を生かした研修を実施し、相互に学び合う。 ・長期休業中に、担任の学級経営について発表し合う機会を持ち、相互研修を図る。

○本年度の重点項目に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と自己管理能力の育成	○朝食摂取率95%以上 ○計画的な食教育(健康教育)を、栄養士・養護教諭とのTTで行う。(全クラス各1回以上)	・「まなざしカード」チェック週間を設け(学期1回)、朝食抜きゼロを目指す。 ・全学級、養護教諭・栄養士とのTTで食育や健康の授業を行う。 ・食のアンケート、給食試食会を実施し、家庭と連携した食指導を充実させる。